

説教題：神の恵みの栄光のために-イエスとのより親しい歩みのために

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこ。

今日も引き続き、聖霊の靈感を受けて使徒パウロが書いた手紙、エペソ書を読んでいきます。前回のメッセージでは、パウロがどのようにエペソの信徒に、したがってすべてのクリスチャンに、クリスチャン生活を送るための指示を与えたかを見ました。今週は、「神の恵みの栄光のために-イエスとのより親しい歩みのために」と題して、クリスチャンとしての歩みをするためのパウロの指示をさらに見ていきたいと思えます。それでは、前回のメッセージの結びの言葉を復習しましょう。

(エペソ 4.30) において、パウロは今、これらすべての否定的な節の主要テーマである、クリスチャンの人生においてしてはならないことの指示を指し示しています。：「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。」そして他の訳では、(エペソ 4.30)：「神の聖霊を悲しませるようなことをしてはいけません。神は、あなたが神のものであることを示すために、その聖霊をあなたに与えました。その結果、あなたは神がいつかあなたを完全に自由にしてくださることを知っています。」

MISSION IMPOSSIBLE-クリスチャン・ライフ」というサブタイトルで述べたように、私たちのイエスとその父に喜ばれるクリスチャン・ライフを送ることは、**神の助け主である聖霊なしには不可能**です：ここで、クリスチャンである私たちに代わって聖霊が働いてくださることについて、もう少し聖書的な詳細を明らかにしたいと思います…。次に、終末論、私たちの人生の終わり、そして歴史の終わりについての神学です。

「**神はいつかあなた方を完全に自由にしてくださる**」は、**釈義**、つまりその完全な意味を引き出す必要があります。ギリシア語原文は、ある日完全に自由になることの本当の意味に関する混乱を明らかにしています。(エペソ 4.30)：あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。ギリシア語新約聖書の原文では σφραγισμός (sphragizō) Sealed、日本で重要書類に押される印鑑のように、スタンプが押されるように印で封印されました。Mounceの翻訳、簡単な翻訳では、あなたが主のものであることを示すために。どちらの訳も、神が私たちクリスチャンを「最愛の子」として所有されていることを示しています。それで、パウロは、神の御霊の賜物は、クリスチャンに神のものであるという確信を与えるものだと言います。

しかし、もし「封印」が一時的なもので、私たちの輝かしい未来の約束がなければ、キリスト教はしばしば、神がイエスとの歩みの中で許してくださる試練や苦しみの中で、マゾヒスティックになったり、自己嫌悪に陥ったりしてしまうでしょう。しかし、それは{私たちの}贖罪の日まで、あるいは{私たちの}贖罪の日のための、聖霊による「封印」です。また、ギリシア語の原典では、贖罪を意味する単語は「(apolytrōseōs / ἀπολύτρωσις)」であり、身代金の支払いによって得られる贖罪、解放を意味します。Born Again Christians are free from the judgment of their sins the moment they believe on Jesus' finished work to buy their pardon, それゆえ、完全に自由であることが、私たちの贖いの日 (apolytrōseōs) です。新生したクリスチャン

は、(ローマ 3.24)にあるように、イエスの完成された御業を信じた瞬間に、罪の裁きから解放されます。：彼らは、キリスト・イエスにある贖い (apolytrōseōs | ἄπολυτρωσέως) によって、その恵みによって自由に義と認められる。 義認とは、罪の刑罰から自由です。。 しかし、エペソ人への手紙など、クリスチャンに成熟を求めるパウロの手紙のほとんどは、クリスチャンは死すべき肉体の中にある罪の力から自由にはなれないことを強調しています。 死からの復活という新しい体だけが、私たちが罪の古い性質から完全に解放してくれるのです。 パウロが(ローマ 8.23)で言うように：「そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にしてくださいこと、すなわち、私たちのからだの贖われること (apolytrōsin | ἄπολυτρωσίην) を待ち望んでいます。」パウロは、義と認められた聖徒として自由な状態にあるクリスチャンに、自分の中に残っている罪深い性質、すなわち肉に従わずに、御霊に従って歩む方法を教えている。 地上の肉体から離れるとき、私たちはパウロのような神の指導者のいるこの学校を卒業します。 そのとき、私たちは罪に関する配慮を必要としなくなる.....何もなくなるのです！

教訓 その1

義認とは、罪の罰からの自由です。 しかし、エペソ人への手紙など、クリスチャンを成熟へと導くパウロの手紙のほとんどは、クリスチャンが死すべき肉体の内側にある罪の力から自由でないことを強調しています。 新しい肉体、死からの復活だけがそれを解決します。 彼はクリスチャンに、自分の中に残っている罪深い性質、すなわち肉に従うのではなく、御霊に従って歩む方法を教えている。 この世を去るのに前向きな姿勢でいられないなんて、誰にも言わせません。これは敗北を受け入れることではなく、栄光における完全勝利を信じることです！

クリスチャンが成熟し、イエスとの「より近い歩み」、つまりより親密な関係を望むようになると、神の気持ちを個人的にもっと気にするようになる。

神には感情があります。 内在する御霊は、私たちがクリスチャン生活を生きる方法を感じ取っておられます。 成熟したクリスチャンは、(エペソ 4.23) にあるように、ますます良くなっていきます：「またあなたがたが心の霊において新しくされ」 彼らは、神に喜ばれることをするだけでなく、神が感じておられることをもっと感じることを学ぶ。 聖霊を悲しませることを考えるだけで、私たちは自分の行動に敏感になるはずでず。 アメリカで馬の調教をしていた妻のドロシーが言っていました： 「馬でさえ、主人が感じることを学び、主人を喜ばせようとしませす。 馬は野性的で気ままな性格から成熟していく。 背中に誰かを乗せて、文字通り主人との距離を縮ともに歩むことを学びませす。」

さて、これらの考えを今日のメッセージ、朗読箇所(エペソ 4.32)につなげて見ましよう：「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」 「イエスとのより緊密な歩み」は、聖霊が私たちの人間関係の中で感じておられることを感じる結果となります。 それは、すべての人、特にクリスチャンに対する接し方です。 私たちの内側に住んでいる聖霊は、私たちの人間関係において、神の感覚と神の言葉を結びつけませす。 これは簡単なことのように聞こえませす、しかし、彼らの考え方を理解するのが難しい仲間もいませす。 そして、そして、彼らがまったく気づいていないような罪深い傾向もいませす。 これらの聖人たちは、あなたの忍耐を本当に試すかもしれませす！ だから、聖霊はしばしば、とても優しいささやき声で、イエスが私たちを見つけた罪深い状態、たぶん何年も前、私た

ちがイエスに引き寄せられつつあったとき、そして、救いの贈り物として与えられた神の赦し...イエスの贈り物...を思い出させてくれます！

それで (エペソ 5.1-2)は私たちに言います：「1 ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。」

神はキリストにおいて、赦しの完全な模範を与えてくださいました。赦しは完全な赦しであらなければなりません、そうでなければ、それは全く赦しにはなりません！神は私たちを愛し、イエスは私たちの赦しを買ってくださいました。私たちは、他の人たちにも同じことをするよう、理不尽なことを求められているではありません。これは、イエスが使徒たちに、後に訪れる町々に奇跡を行うようにと送り出したときに、イエスが最初の使徒たちに語ったことです。(マタイ 10.8)にこれを見ます。：「病人を直し、死人を生き返らせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出さなさい。あなたがたは、ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」

多くの場合、私たちには知恵と理解が欠けています。自分の理解を超えて主を信じるためには、自分自身と対話し、聖書の一節「愛は決して絶えることはありません」(1 コリント 13.8)を自分の内なる人に説くことが必要です。こうして私たちは、(エペソ 5.2)にあるように、「愛のうちに歩む」人生を選ぶのです。何年も前のアメリカでの説教で、尊敬する牧師がこの「自分自身と対話する」という考えを語っていたのをはつきりと覚えています。考え、そして、その事について祈るまでは「まともではない」ように聞こえるでしょう。自分自身に語りかけることは、クリスチャンの人生においてとても健全なことなのだ。

パウロは今、クリスチャン生活を送る上で、絶対にしてはならない活動があることを明らかにしている！(エペソ 5.3)：「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。」他人を惹きつける魅力は、聖なる神からの贈り物である：異性に対しては、明らかに結婚に向けた神の創造であり、同性に対しては、兄弟愛に向けた神の創造である。もちろん、肉体的な魅力は善良で聖なる人間関係の一部に過ぎない。人類の罪は、同性への肉体的魅力の倒錯であり、同性愛の罪です。そして異性に対する不品行の罪、つまり婚姻外の性的関係です。使徒パウロは、神の聖性の基準を妥協しているのではない。これらの性的倒錯は、(エペソ 4.30)にあるように聖霊を悲しませます：「神の聖霊を悲しませてはいけません。」

性的な罪は今に始まったことではないのですが、今日、テレビや特にインターネットなど、視覚的にアニメーション化されたメディアの世界は、そのような罪を誰もが利用できるようにし、何の予告もなく即座にあなたの前に現れるようにしています！パウロは、クリスチャンの生活、つまりイエスとの歩みの中に、性的不道徳や不純なもの、貪欲なものが微塵もないようにと、クリスチャンに指導しています。神の内住の御霊は、私たちを助け、こうした罪深い行為から遠ざけるよう導いてくださいます。しかし、性的不道徳の気配さえ感じないようにするには、祈りとイエスと密接に歩み、誘惑との葛藤をすべてイエスに語ることが必要です。深い行いをしないことは、主イエスが(マタイ 5.27-28)で言われたように、人間の内面から始めなければなりません。「27『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。28 しかし、わたしはあなたがた

に言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」

したがって、身体でその行為を行わないことは、心で罪を犯さないことを意味しません。聖霊は、クリスチャンが目の欲に誘惑されると、いつも警告を発しています。それは目と心から始まるのです。イエスに素早く祈ることで、それが心に入らないようにすることができます。異性に気づいたり、魅力を感じたりするのは普通のことです。しかし、肉体的な接触を伴わない姦淫である欲望を凝視しないように、聖霊の助けを受け入れようとしないうち、私たちは自分自身を欺いてはいけません。

教訓 その2

私たちの古い罪深い性質との戦いには、祈りによって、また聖なるクリスチャン生活を忍耐強く続ける決意によって、私たちが罪深い性質に宣戦布告することが必要です。私たちに、罪深い性質を十字架につけ、死に至らしめる力があります。神は時の上におられ、これは非常に効果的な祈りであり、神は積極的に答えてくださることを忘れてはなりません。誘惑が私たちの心を最も強く引きつけているときに、このような祈りをするのを怠ってはならないのです。(コロサイ 3.5)にあるように：「だから、あなたがたのうちにある地上のもの、すなわち、性的(*porneian* / $\pi \omicron \rho \nu \epsilon \iota \alpha \nu$)な不道徳、不純、欲望、邪悪な欲望、偶像礼拝である貪欲は、ことごとく十字架につけなさい。」

(エペソ 5.3)：「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。」 **むさぼり** - (MOUNCE)聖書のギリシア語辞書の定義とともに、新約聖書のギリシャ語、 $\pi \lambda \epsilon \omicron \nu \epsilon \xi \iota \alpha$ 、pleonexiaは、NIVUK 聖書では貪欲と訳されています：そして一方が他方に対して持っている何らかの優位性；富への過度の欲望、強欲、けちな、実力以上のことをしようとする；強奪；おねだりされたり、「impunity(強要)」によって要求され、「grudging(不承不承)」によって与えられる贈り物、強引な贈り物；強要の計画。主イエスの言葉は、貪欲な私たちの心を探るのに最も適したものである。主は(Luke 12.15)でこう言われたからです：「そして人々に言われた。「どんな貪欲(pleonexias | $\pi \lambda \epsilon \omicron \nu \epsilon \xi \iota \alpha \varsigma$)にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」

パウロは(エペソ 5.4)で警告の言葉を続けています：「また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。」罪人たちをイエスに近づけたいという私たちの願いは、彼らの卑猥な言葉や愚かな話、粗野な冗談に耳を傾けることになるかもしれません。ある時点で、私たちは相手を怒らせる危険を冒して、この話は私たちを怒らせるものだと伝えなければならないでしょう。というのは、パウロはコリントの信徒にこう警告しているからです。(1コリント 15.33)：「思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれま

す。」汚れた冗談や愚かな話は、むしろ感謝よりも、私たちの心にもあまりにも簡単に定着してしまいます。 - 会話の中で神の祝福を分かち合うことは、とても前向きで爽やかな会話です。クリスチャンの生活のすべてが「宗教的」であるように、それは「宗教的」な活動だけである必要はないのです。しかし、良い釣りのプレゼント、息子とサッカーをする楽しみ、インターネットで新しいレシピを見つけること、あるいは聖霊を悲しませない世俗的な活動のどれでもいいのです。聖霊は「グノーシス主義」の精神ではな

く、神は私たちが人生のあらゆる部分に感謝を捧げるのを聞くのが好きなのです。グノーシス主義は、神が霊であることは認めるが、すべての物質的なもの、たとえ人間の肉体でさえも悪であると教えています。したがって、イエスは人間の肉体を持って地上に来られたのではないのです！

今、使徒は、彼の教えを真摯に受け止めることが霊的な生死にかかわる問題であることを、はっきりと明白にしています！（エペソ 5.5-7）：「5 あなたがたがよく見て知っているとおりに、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。6 むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。7 ですから、彼らの仲間になってはいけません。」

ブルース牧師、あなたは尋ねるかもしれない、クリスチャンが**天国で栄光を得るために選ばれた者**であることについて、あなたが説教の中で説いた約束はどうだったのですか。これは、私の人生、特に1980年代の神学校での御言葉と御霊による体験的キリスト教において、私自身が自問し、イエスに答えてもらった質問です。この質問に答えるために、私はこのメッセージに多くのことを盛り込むことにしました。それは、誠実なクリスチャンの心の葛藤であるだけでなく、サタンが神が真実でないといふ非難する点でもあるからです！

さて、聖なるクリスチャン生活を送るために「イエスとのより緊密な歩み」を求めることについて、先週私が言ったことを思い出してください：**私たちは自分の意志を行使する責任があります。その意志は、罪人である私たちにはなかったものです。それは、最初は神に向かって歩むことでした。サタンと罪から離れることでした；そして今、その方向に進みます。その仕事が、私たちに任されています！それが私たちの仕事です！** この言葉は、不道徳で、不純で、貪欲な生き方をしているクリスチャンが救いを失うという私の答えのカギを握っています。何が私たちの仕事であり、何が神の仕事なのかを強調しなければなりません。

イエスを愛する者は誰でも、イエスとの密接な関係にとどまろうと意志を行使します。そう、彼らはそれを不完全に行なっています。しかし、神は厳しい支配者ではないのです！彼は**完璧なパフォーマンス**よりも心を見ています。クリスチャンが**不道徳、不純、または貪欲**であると知っているライフスタイルにとどまることは、意志の意図的な行為です。こうして彼らは、**キリストの王国と神の王国における相続権**を、罪の喜びのために故意に捨てることになる。私たちは誰でもすぐに、より哀れな聖い生活に逆戻りする可能性があります。しかし、エペソ人への手紙でのパウロの勧告や聖書の多くの箇所を反してそのようなライフスタイルを続けることは、神に対する意志の行為です。これはイエスを傷つけ、聖霊に悲しみと憂いをもたらします。故意の罪を犯し続けることは、クリスチャンが救いを捨て、神に、天国への扉を閉ざさせることとなります！クリスチャンは、故意の**罪深い行い**を確信した後、悔い改め、へりくだった態度で神の助けを祈ります。それは短い祈りかもしれないし、**ダビデ王が(詩篇 51.1-2)**で行ったように、神の慈愛の座に向けた詳細な祈りかもしれません。：「1 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。2 どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。」

クリスチャンがやってしまいがちだが、後になってそれが罪であったと気づくような、不義と表現するのが最もふさわしいと思う種類の罪も告白されるべきです。(NASB/1995)聖書は、これらの節に適切な副題をつけています。2つの性質の葛藤、エペソ人への手紙に対する私の現在のメッセージの多くの焦点は、この点にあります。これは、パウロが(ローマ 7.14-8.1)で詳しく述べているように、罪深い行為です：「14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。16 もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいのに、23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。8：1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」

故意であろうとなかろうと、あらゆる罪がイエスを十字架に送りました。パウロの(ローマ 7)で罪の描写には、彼の罪をこの死の体に例えたところに、感情的な内容が見て取れます。これは実際にエルサレムで、ローマの囚人の背中に死体を縛り付けて、病気で嫌な緩慢な死を引き起こすという例でした！

今、心からの祈りは、イエスとの関係を回復し、強く保ち、神に選ばれた者への神の恵みによって、聖霊は罪を清め(ローマ 7章)、また、意志的な罪を清め、クリスチャンの意志をクリスチャンとしての聖なる生活、イエスとのより近い歩み、に向かわせます。

教訓 その3

クリスチャンは生まれ変わってすぐに、自分の古い罪深い性質との戦いが現実のものであり、イエスを通しての神との関係を脅かすものであることを知ります。神に対して故意に罪を犯し続けることは、実際には、罪の喜びのために永遠の命を捨てることであり、イエスよりもこの墮落した世界を愛することなのです。聖霊はすべてのクリスチャンに自分の罪を確信させ、心からの祈りがイエスとの関係を回復し、強く保つようにします。ですから、選ばれし者への神の恵みによって、聖霊は(ローマ 7章)意志のない罪をきよめ、また意志のある罪をもきよめ、クリスチャンの意志をイエスを愛し、クリスチャンとしての聖なる生活、A Closer Walk With Jesus (イエスとのより近い歩み)を送る方向へと戻してくださるのです。

(エペソ 5.8-10) : 「8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあつて、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。9——光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。——10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」

イエスの兵士として、神があなたの中に築き上げられた確信を最小化することなく、旧約聖書の中で、エジプトの奴隷から解放されたイスラエルの民に、繁栄の危険性を思い起こさせる聖句を思い出すのは良いことです。(申命記 8.12-14) : 「12 あなたが食べて満ち足り、りっぱな家を建てて住み、13 あなたの牛や羊の群れがふえ、金銀が増し、あなたの所有物がみな増し加わり、14 あなたの心が高ぶり、あなたの神、主を忘れる、そういうことがないように。——主は、あなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出し、」

ニューヨークのギャングの救いのために働いている牧師として有名なアメリカのパイオニア、デイビッド・ウィルカーソンは、これをこう言い換えました：「あなたの心が高ぶらないように、主があなたがたを連れて来られたすべての道を思い出しなさい私たちクリスチャンは皆、かつては闇でしたが、今は {私たち} 主にあつて光です。私たちは、神の賜物である信仰によって、霊的な暗闇のエジプトから導かれ、繁栄させられました。イエスの十字架上の死は、私たちの罪を取り去るとともに、私たちに新しい性質、それもイエスのような性質を与え、私たちを暗闇から光の子へと変えてくださいました。パウロはクリスチャンに、主にあつて光り輝く者としての生き方を思い出させています。クリスチャンがその意志を持ち続ければ、聖霊は御自分の実を結ばせてくださいます。(エペソ 5.9) : 「9——光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。——(というのは、光の実は、すべての善と義と真理とから成るからである。)」そして(エペソ 5.10) は言います：「10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」先週申し上げたように、私たちの力だけでは、聖なるクリスチャン生活を送ることはミッション・インポッシブルです。しかし、人間には不可能なことも、神には可能です(ルカ 18.27)。体験的キリスト教は、研究室で働く科学者のような試行錯誤の人生ではないのです！しかし、実験の材料として罪を選ばなければ、それはまだそのようなものです。私たちは羊であり、他の動物と比べれば、むしろ「愚か」です。しかし、私たちに地上で最も偉大な羊飼いがいます。主の杖と杖は私たち羊を慰めてくださいます(詩篇 23.4)。だから、何が主のお気に召すかを見極めよという指示は、そのプロセスです。神の憐れみ、忍耐、計り知れない愛が、不可能を喜びに満ちた経験にしてください！...そして、多くの場合、悲しみもあります。イエスにはゲッセマネがありました。私はこのことを、11月のメッセージ「わがイエス、御心のままに」の主要な部分にしようと考えています。

(エペソ 5.11-12) は言います：「11 実を結ばない暗やみ (Greek New Testament - σκότος, skotos) のわざ仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。12 なぜなら、彼らがひそかに行なっていることは、口にするのも恥ずかしいことだからです。」

スコトス (Skotos) とは、光 (神) の領域に対する闇 (サタン) の霊的領域を指します。(ヨハネ 1.4-5) で主イエスが世に入られた時のように：「4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。5 光はやみ (skotos), の中に輝いている。やみ (skotos) はこれに打ち勝たなかった。」

また、イエスはパウロに、彼のメシアであるイエスを信じる者としての召命を明らかにされました(使徒 26.16-18) : 「16 起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現われたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて示そ

うとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。17 わたしは、この民と異邦人との中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。18 それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。』

最近引用されたエペソ人への手紙の箇所では、邪悪な快樂を避けることが強調されているが、サタンはクリスチャンの肉を、気持ちの良い罪によって誘惑することを忘れてはいけません！ (エペソ 5.11)：「11 実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出さなさい。」エペソ人への手紙6章にある「サタンに対抗する神の全武具」を取り上げた私のメッセージには、より具体的なことが書かれています。しかし、次のような教会の「マジックショー」の例は、ここ大阪でも闇が常に光に打ち勝とうとしていることを示しています。

エペソ人への手紙6章にある「サタンに対抗する神の全武具」を取り上げた私のメッセージには、より具体的なことが書かれている。しかし、次のような教会の「マジックショー」の例は、ここ大阪でも闇が常に光に打ち勝とうとしていることを示しています。キリストに生まれ変わる前、私は魔術師の心を持っていました。占星術の修行をしていたこともあり、オカルトを通じた悪魔の力をよく知っています。イエスが実在することを知っていたので、私はクリスチャンだと思っていました。サタンが個人的に私のところにやってきて、超自然的な力を提供してくれました！それから6か月間は、ある人は「この世の地獄」と呼ぶかもしれないが、やがて神が現れました。私が生まれ変わった後、主イエスは私に、占星術による私の罪は私の責任であり、無知でやったことだと言われました。しかし、私の魔術師の心は、サタンの個人的で強力な前進を導く根本的な原因でした。イエスはこのことを、解放の超自然的なしるし、救いの賜物、そして私がそれまで読んだことのなかった神の言葉を正しく分ける賜物.....すべて一度に与えて証明されました。

また、「手は目よりも速い」という概念自体が霊的なものではないことも知っています。しかし、たとえ「魔法」がそれだけだとしても、それは罪人に対する神の霊の真の力を覆い隠してしまいます。特に日本の罪人たちは、自分の目を見た「トリック！」によってキリストの福音を受け入れているように見えるだろう。OICの役員会から旧約聖書の箇所とともに(コロサイ 2.8)が送られてきました。これは、「手は目よりも速い」というだけの「マジックショー」にも当てはまります。(コロサイ 2.8)は、このことを明確に言います。：「8 あのみなしい、だましごと(空念仏)の哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。そのようなものは、人の言い伝え(精神世界よりもむしろ物質世界に対する人々の考え方)によるものであり、この世に属する幼稚な教えによるものであって、キリスト(メシア)に基づくものではありません。」

だからOICは、(エペソ 5.11)や(コロサイ 2.8)にあるような「マジックショー」のような伝道者にはノーと言い、むしろ彼らを暴露しなさいと言ったのです。

私の体験的なクリスチャンの歩みにおいて、もう一つ有益な出来事がある。

つい先週、私はアメリカ人のノンクリスチャンに、共通の日本人の友人との友情のために私の宗教に同意するよう要求しているように見えたことを説明し、謝罪するために手紙を書いた。彼女は京都からボストンの自宅に戻ったばかりだった。私はアメリカ人の友人に言いました：「シャンシャンという台風が日本に近づいている。台風が日本に近づいているんだ。」私たちクリスチャンは、聖書が真実であり、すべての人に『人には一度死ぬことが定められ、その後裁きがある!』と告げていることを知っています」。

1996年以來、互いに無条件の友情を育ててきた彼女が、2016年にイエスを受け入れる意志があることを、私は日本人の友人に直接尋ねました。私たちは彼女を愛しているの
で、台風が来るように、彼女が神の裁きを避ける決断をするように警告を発していること
を確かめたかったのです」。神をたたえよ！神は私を驚かせました。ボストンに住む
このアメリカ人の友人は、私の態度を尊重し、ドロシーと私と友達でいたい、ニューズレ
ターを読み続けたいと言ってくれました。もし私が彼女の機嫌を損ねることを恐れて慎
重になりすぎていたら、この**機会は閉ざされたまま終わっていたでしょう！**

もし世の罪人たちが私のようにサタンと対面するならば、私のようにイエスを呼び求める
者はもっと多くなると思います！だからこそ、ここ日本では、神道や仏教の神社、寺
院、お祭りなどでオカルトや異教的な活動が表だって行われているにもかかわらず、悪魔
はどこか隠れているのです。(エペソ 5.13-14)パウロは私に同意しているようでした：

「13けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。14
明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている
人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らさ
れる。」

教訓 その4

クリスチャン生活において、イエスとのより緊密な歩みは、周囲の罪人に対する私たちの
責任を増大させます。サタンはそれを望んでいます！サタンはそれを望んでいるので
す！私たちがクリスチャンになったのは、誰かがイエスの福音を伝えて警告してくれたか
らです。私たちは、それぞれの賜物と能力に応じて、愛をもって罪人に警告し、指導す
る方法を見つけることが期待されています。

エペソ人への手紙のこれらの箇所における指示は、もし私たちがイエスとより緊密な歩み
を続けるなら、私たちを取り巻く世界の善と悪にもっと注意を払うようになることを教え
ています。私たちは、神に喜ばれるように行動し、反応する責任を負うようになりま
す。聖霊は、私たちが次の試練に直面する前に、私たちの確信と経験的キリスト教が私
たちに備えていることを確認してください。祈りましょう！

参考文献

AMP- Amplified Bible, & Classic Edition

Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation

EASY - Easy English Bible Copyright © [MissionAssist](#) 2019 - Charitable Incorporated
Organisation 1162807. Used by permission. All rights reserved.

MOUNCE - The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament Copyright © 2011 by William D.
Mounce. Used by permission. All rights reserved worldwide.

“Reverse Interlinear” is a trademark of William D. Mounce.

NIVUK - Holy Bible, New International Version® Anglicized, NIV® Copyright © 1979, c
1984, 2011 by Biblica, Inc., Used by permission. All rights reserved worldwide.

TLB - The Living Bible copyright © 1971 by Tyndale House Foundation. Used by permission
of Tyndale House Publishers Inc., Carol Stream, Illinois 60188. All rights reserved.